

SL ジャパン、インメモリで高速に集計・分析される大量イベント・ストリームのリアルタイムな可視化と監視で、日立製作所とテクノロジー・パートナー提携

日立の Cosminexus ストリームデータ処理基盤製品に
米 SL 社の RTView ダッシュボードをダイレクトに接続した、リアルタイム・モニタリングを実現

2010年2月18日 プレス・リリースより:

SL ジャパンは、現場からインメモリで高速に集計・分析される大量データ・ストリームのリアルタイムな可視化と監視で、SOA プラットフォームの提供でリードする株式会社日立製作所(以下「日立」)とテクノロジー・パートナー契約を締結したことを、発表しました。

日立では、大量データをインメモリで高速に処理する、同社の SOA プラットフォーム Cosminexus (コズミネクス) のストリームデータ処理基盤製品「uCosminexus Stream Data Platform」を、米 SL 社の RTView ダッシュボードに直接接続するためのカスタム・データアダプタを開発しました。これによって、ユーザはストリームデータ処理基盤に RTView ビルダークラウドを透過的に接続して使用できます。日立が提供する uCosminexus Stream Data Platform ならびにその RTView 接続アダプタと、SL ジャパンが提供する RTView によって、金融・製造/流通・交通などのビジネス現場で生じるさまざまな実世界情報をリアルタイムに収集して分析し、カスタム・ダッシュボードで可視化して監視することができます。すべてインメモリで高速に処理して表示されるこの最もリアルタイムな組み合わせによるモニタリング実現で、現場の状態や問題点をすぐに把握でき、迅速な意思決定が可能になります。さらに、問題が深刻化する前に対策を講じることができます。【[プレス・リリース全文へ](#)】

RTView では、コンテンツリッチで高速なカスタム・ダッシュボード画面はさることながら、アラートや画面上へのデータの集約と解析表示の仕方、履歴などを、ポイント&クリックのビルダークラウドでプログラミングすることなくカスタム構成できます。今回日立が開発したデータ接続アダプタによって、ユーザは RTView ビルダークラウドからメニュー選択するだけで、構成したダッシュボード画面部品にストリームデータ処理基盤を接続していき、すぐにプレビューして確認できます。さらに、RTView のヒストリアン機能を使って、日立の HiRDB などのデータベースにイベント・ストリーム・データを選択または圧縮して履歴データとして格納できるため、時々刻々と表示されるリアルタイム・データを過去の履歴データと画面上で比較することも可能です。また運用時には、コンパクトな Java アプレット、ポートレット、Web 2.0 シンククライアント (AJAX, Flex)、または Java アプリケーションを、透過的に選択できます。

「Microsoft .NET による Web 対応の監視アプリケーション構築」セミナーから

WPF コントロールの活用方法、現場フロアからの監視データを Web 展開、専用カスタム・エディタの構築など



カスタム・エディタ構築デモ
(ビデオ3分45秒)



プリンク機能の実装サンプル・デモ
(ビデオ2分41秒)



WPF サンプル・デモ
(ビデオ2分5秒)



対話的な「プロセス制御」デモ
(ビデオ2分3秒)



バルブ開閉デモ
(ビデオ47秒)

ビデオ再生には Windows Media Player 11 が必要です。

セミナー・サイト http://www.sl-j.co.jp/newsevents/seminar/seminar_dotnet.shtml から再生できます。

去る4月14日(水)、SL ジャパンは「.NET による Web 対応の監視アプリケーション構築」セミナーを開催しました。近年 Microsoft .NET に移行する監視制御システムが急増し、電力設備監視/ビル管理、環境・セキュリティ監視、プロセス制御、生産ライン監視などさまざまなプロジェクトで、SL-GMS Developer & Custom Editor for .NET が使われてきました。

セミナーでは、早期に .NET へ移行してすでに出荷をされている SL 社の国内ユーザ様の事例とともに、SL-GMS Developer for .NET と SL-GMS Custom Editor for .NET による監視制御システムのリアルタイム・ダイナミック GUI と専用エディタの構築が、いかに最短の市場投入時間で支援できるかを、デモを交えてご紹介しました。

また、Visual Studio 2008 に統合された WPF コントロールの活用方法、Web 運用、対話的なプロセス制御などのサンプルを使い、SL-GMS によるアプリケーション開発手順や技法を具体的に解説。昨年 Microsoft Windows 7 発売日にリリースした Windows 7 対応の新バージョン 3.2b でご覧いただきました。



比類なくコンパクトで高速な Java アプレット・デモ @ホームページから

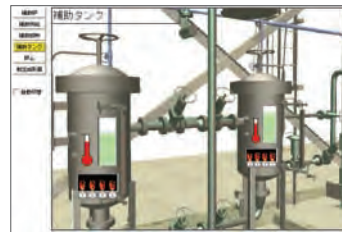
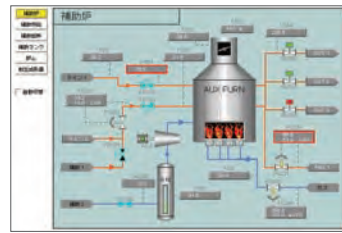
SL 社が長年培ってきた描画技術とコード生成技術によって実現された比類なくコンパクトで高速な Java アプレット(ノアプリケーション)。1998年にSL-GMS J/Developerがリリースされてから10年以上経った今も、他社の追随を許さない、桁違いに小さなフットプリントの Java GUI を提供しています。これまで、プロセス制御、設備監視、ネットワーク監視、交通管制、宇宙・防衛などの分野で、製品組み込み再販ならびに数々のプロジェクトで活用されてきました。

SL 日本のホームページでは、これら各分野におけるSL-GMS J/Developerアプレット・デモを公開しています。今回ご紹介する「対話的なプロセス制御」システム・デモは、元々は SL-GMS C++/Developer 製品で開発されたデモで、同じモデルを SLGMSDraw ダイナミック・グラフィック・エディタの Java コード・ジェネレータを使って、SL-GMS J/Developer で使用できるようにしたものです：

http://www.sl-j.co.jp/applets_new/jprocess_new1/applets_jprocess_new.shtml

補助炉(右上図)、補助供給、補助加熱、補助タンク、炉心、射出の5つのモデルで構成されており、個別のモデルを表示するには、それぞれに対応したボタンを押してください。また、補助タンク画面(右下図)で、タンクの容量表示または温度計のどちらかを右クリックして、グラフとフェースプレート(表示盤)の両方を表示してください。表示盤の『sp+』や『sp-』ボタンをクリックすると、温度とタンク容量表示の設定値を変更できます。そして、実際の温度やタンク容量表示が変化するのをご覧ください。また、温度設定値を変えたときに、タンクの下部にある炎がどのように調節されるかにご注目ください。

このアプレットは、345Kバイトしかありません。これには、すべてのモデルと対話的操作の動的振る舞いが含まれています。



RTView® デモ・ビデオ・シリーズのご案内

SL 日本のホームページ(トップのデモ・メニューから入れます)では、それぞれ数分のビデオに録画した RTView デモ各種を公開しています：

【基本機能】

- ① RTView の基本機能
- ② RTView のビルダーによるリアルタイム・ダッシュボードの作成
- ③ RTView on iPod touch

【カスタマイズと機能拡張】

- ④ カスタム・オブジェクトとカスタム・データ・アダプタによる RTView の拡張
- ⑤ RTView にプリンク機能の実装
- ⑥ RTView の動的オブジェクト生成
- ⑦ グループ化/集約化機能の追加

【応用例】

- ⑧ RTView で Google Map の利用
- ⑨ Google Map での動的ネットワーク生成
- ⑩ Sybase CEP による市場データの可視化と監視
- ⑪ RTView と Sybase RAP
- ⑫ RTView と複合イベント処理(CEP)
- ⑬ RTView とデータベース
- ⑭ ビジネス・ダッシュボードを超えて
- ⑮ RTView for Excel Lovers?
- ⑯ RTView と OPC UA

【運用インフラ監視】

- ⑰ JMX による Java アプリケーションの監視
- ⑱ 新しいリリースに更新した RTView for Oracle Coherence V5.4
- ⑲ RTView for APM | BW Monitor
- ⑳ RTView for Oracle Coherence
- ㉑ RTView TIBCO Rendezvous Monitor
- ㉒ RTView TIBCO EMS Manager
- ㉓ RTView TIBCO Hawk Monitor



RTView® セミナ開催のご案内

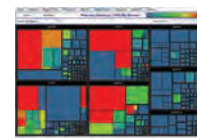
「リアルタイムな可視化と監視ダッシュボードの適用 — インフラ/アプリ監視から BAM するには」

昨秋の ITpro EXPO 2009 「SOA テーマ・セッション」セミナーの内容を拡張して開催：インフラ/アプリ監視からサービスやオペレーション状況をリアルタイムに可視化して監視するには

★日時：2010年6月23日(水) 15:00~17:00 [無料・事前登録制]

★場所：エイベックスビル(東京・南青山 SL ジャパン所在ビル)

セミナー・サイト：http://www.sl-j.co.jp/newsevents/seminar/seminar_ertv.shtml



世界の主要 SOA ミドルウェアのフロントエンドをはじめ、24x365 日運用システムのインフラ/アプリケーション監視からサービスやオペレーションの状況を監視する BAM (ビジネス・アクティビティ監視) ソリューションまで、米 SL 社の RTView 『カスタム』ダッシュボードを適用した『リアルタイム』データのグラフィックな可視化と監視について、Google マップ、CEP エンジン、JMX、JMS、XML、グリッド・アプリケーションなどへの接続による構築事例とデモを交えて、解説します。

■セミナーのお申し込みは、Newsletter 返信用ファックス、電子メール seminar@sl-j.co.jp またはセミナー・サイトから承っております。

Real-Time Visibility



株式会社 SL ジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山 3-1-30 エイベックスビル 3階

Tel. 03-3423-6051 Fax. 03-3423-6070 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

年3回発行 2010年5月21日発行 通巻36号

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。